

**製品名: AMPK $\beta$ 1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06851**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	38kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PRKAB1
別名	PRKAB1; AMPK; 5'-AMP-activated protein kinase subunit beta-1; AMPK subunit beta-1; AMPKb
遺伝子 ID	5564.0
SwissProt ID	Q9Y478
免疫原	抗血清はヒト AMPK $\beta$ 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 147-196

**背景**

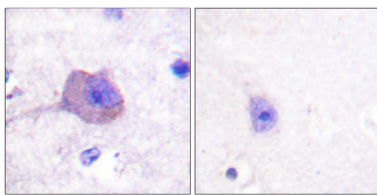
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、AMP 活性化タンパク質キナーゼ (AMPK) の調節サブユニットです。AMPK は、 $\alpha$

触媒サブユニットと非触媒  $\beta$  および  $\gamma$  サブユニットからなるヘテロ三量体です。AMPKは、細胞のエネルギー状態を監視する重要なエネルギー感知酵素です。細胞の代謝ストレスに反応して、AMPKは活性化され、脂肪酸とコレステロールの de novo 生合成の調節に関与する重要な酵素であるアセチル CoA カルボキシラーゼ (ACC) と  $\beta$ -ヒドロキシ  $\beta$ -メチルグルタリル CoA 還元酵素 (HMGCR) をリン酸化して不活性化します。このサブユニットは、AMPK 活性の正の調節因子である可能性があります。このサブユニットのミリスチル化とリン酸化は、AMPK の酵素活性と細胞内局在に影響を及ぼすことが示されている。このサブユニットは、AMPK 複合体の会合を媒介するアダプター分子としても機能する可能性があります。 [providedfunction:AMPK は、アセチル CoA カルボキシラーゼのリン酸化を介して脂肪酸合成を調節する。また、ヒドロキシメチルグルタリル CoA 還元酵素およびホルモン感受性リパーゼのリン酸化と不活性化を介してコレステロール合成も調節する。これは調節サブユニットであり、AMPK 活性の正の調節因子である可能性がある。また、触媒  $\alpha$  サブユニットのアダプター分子として機能する可能性もある。、PTM:リン酸化。、類似性:5'-AMP 活性化プロテインキナーゼ  $\beta$  サブユニットファミリーに属する。、サブユニット: $\alpha$  触媒サブユニット、 $\beta$  サブユニット、および  $\gamma$  非触媒調節サブユニットのヘテロ三量体。FNIP1 および FNIP2 と相互作用する。、

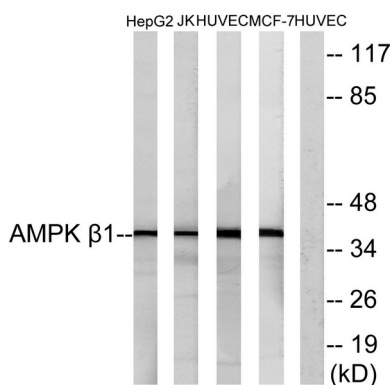
## 研究分野

AMPK

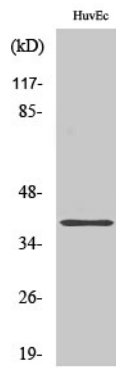
## 画像データ



AMPK beta1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



AMPK beta1 抗体を用いた HepG2、Jurkat、HUVEC、MCF-7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した AMPK $\beta$ 1 ポリクローナル抗体を用いた各種細胞のウエスタンブロット解析。